

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | |
|---------|--------------------|
| 事業所番号 | 4079600542 |
| 法人名 | 有限会社 添田商産 |
| 事業所名 | グループホーム かがやき |
| 所在地 | 福岡県田川郡川崎町大字川崎112番地 |
| 自己評価作成日 | 平成28年10月21日 |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

| | |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | http://www.kaigokensaku.jp/40/index.php |
|----------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | | | |
|-------|---------------------------|---------|------------|
| 評価機関名 | 株式会社 アーバン・マトリックス 福祉評価センター | | |
| 所在地 | 福岡県北九州市戸畑区境川一丁目7番6号 | | |
| 訪問調査日 | 平成28年11月21日 | 評価結果確定日 | 平成29年3月28日 |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

①「家庭的な生活環境」の提供②「残存能力を活かした生活」の推進③「尊厳ある生活」の重視④「楽しみ」の提供⑤「安心感」の醸成⑥「地域社会とのつながり」の重視という6つの理念のもと、地域行事への参加等、日常的な交流を通して地域とのふれあいを大切に、内外部の研修にも積極的に参加しています。利用者のニーズを職員全体が的確に共通理解し日を穏やかに、安心して暮らして頂けるように努力しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設して13年目を迎え長期に入居されている方も多く、少しずつ重度化へと移行している中で、定着率の高い、安定している職員体制を活かした馴染みの関係性が築かれている。日々の関わりを通じて把握された情報の共有とともに、センター方式の活用等による根拠のある情報や気づきを本人本位に基づく暮らしの継続に結び付けるべく、管理者、職員は一丸となって取り組んでいる。内外の研修機会が確保され、細やかな視点を大切にしたカンファレンスの実施、家族や地域との連携重視、情報開示への積極的な姿勢等、理念の具現化に向けて取り組んでいる。周辺環境の変化も予定されており、地域拠点としての活動展開が大いに期待される。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | 項目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 |
|----|--|----|---|
| 58 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27) | 65 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21) |
| 59 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40) | 66 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22) |
| 60 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40) | 67 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) |
| 61 | 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39) | 68 | 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) |
| 62 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51) | 69 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う |
| 63 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:32,33) | 70 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う |
| 64 | 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30) | | |

| 自己評価および外部評価結果 | | | | |
|-------------------|--------|---|--|---|
| 自 己 | 外 部 | 項 目 | 自己評価 | 外部評価 |
| | | | 実践状況 | 実践状況 |
| I.理念に基づく運営 | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 理念に基づいたケアの維持、共有ができて いるか毎日の申し送り等で確認を行い、職員 全体が意見交換できる場を設け実践してい ます。 | 地域密着型サービスとしての意義を踏まえた6項目の 運営理念を掲げ、日々の申し送りや、内部研修の中に 位置付ける等、振り返りや確認の機会を持ち、理念の 具現化に取り組んでいる。 |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよ う、事業所自体が地域の一員として日常的に交流 している | 地域行事への参加や清掃活動等、日常的に 交流しています。 | 近隣4地区の神幸祭の地域の方々の来訪があり、地 域の文化祭の見学、区の餅つきへの参加や清掃活動 も行なっている。また、近所の子供の遊び場として事業 所前の敷地を開放し、トイレの使用も可能である。中学 生がボランティアとして訪れたり、最近では地域のグル ープホームと相互に人的交流が始まっている。 |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の 人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活 かしている | 地域行事への参加、事業所での作品等の展 示等、又地域の憩いの場としての庭先の解 放及び、お手洗い等の貸し出しをしていま す。 | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評 価への取り組み状況等について報告や話し合いを 行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 2カ月毎の運営推進会議にてホームの活動 内容の報告、利用者の状況、生活履歴等、 現在の地域の情報等を意見交換し、サービ ス向上に努めています。 | 年6回、家族や区長、民生委員、PTA会長、地域包括 支援センター職員等の出席を得て、運営推進会議を開 催している。事業所の状況報告や地域の活性化、防災 訓練などについて話し合い、サービス向上に活かして いる。議事録を掲示し、閲覧可能としている。 |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所 の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝え ながら、協力関係を築くよう取り組んでいる | 町の担当者との連携を電話や面談で定期的 に行っています。 | 運営推進会議には、地域包括支援センター職員の出 席を得ており、また、行政主催の研修参加等を通じて、 協力関係を築けるよう取り組んでいる。ケースワーカー の方との情報共有に努めている。 |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービ ス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービ ス指定基準における禁止の対象となる具体的な行 為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身 体拘束をしないケアに取り組んでいる | マニュアルの作成や研修会への参加で身体 拘束の意味やその害を考え、職員全体が理 解し、身体拘束をしないケアの実践に取組 んでいます。 | 身体拘束排除宣言を掲示し、身体拘束排除や高齢者 虐待防止に関する内外の研修機会を確保している。夜 間の職員1名体制時に同時対応が必要になった場合 について基本的なマニュアルを作成したり、ストレスケ アやスピーチロック、ドラッグロック等についても意識を 高めながら、個別のより良いケアについて検討を重ね ている。 |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法につい て学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での 虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防 止に努めている | 虐待防止に関する研修会への参加、イン ターネットでの情報を基に、会議を開き情報 の共有を図っています。職員間の言動にも注 意し、虐待の防止に努めています。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8 | (6) | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 利用者のご家族や、町の担当者、福祉事務所の担当者との連携、また人権研修の中で職員全体が権利擁護に関する制度を正しく理解できるよう努めています。 | 成年後見制度や日常生活自立支援事業について、年間研修計画の中に継続して組み込み、外部研修参加及び内部での伝達を図っている。また、資料を整備し、常時閲覧可能としており、必要時の情報提供や関係機関との連携により、活用に向けた支援を行えるよう取り組んでいる。 | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 契約の際、ご家族に理解していただける様、必要な情報を書面で説明し、十分に理解し納得していただいた上で契約を結んでいます。 | | |
| 10 | (7) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 利用者のご家族がいつでも、意見が出来る雰囲気づくりに努めています。また年1回の家族交流会の開催、交流会後のアンケート等で意見を頂戴しサービス向上に努めています。 | 日常的に家族の来訪する機会が多い。年1回、食事を兼ねて交流会を開催し、多くの家族の出席を得ている。1年間の振り返りをDVDを用いて伝えるとともに、同時にアンケート調査を実施し、意見や要望の収集に努めている。ターミナルケアに関する要望が出される場面もあり、信頼関係を築きながら運営について協議を行っている。生活報告書及び日々の記録を家族来訪時に開示している。 | |
| 11 | (8) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 年2回の全体会議の開催、個別相談等で職員の意見や提案を開く機会を設けています。 | 日常の中で、随時情報共有を密に図り、業務改善や個別のケアについて活発な意見交換が行われている。個別の睡眠状況や日中の活動性の向上、午睡の必要性等について、細やかな協議が行われている。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 個別に相談に応じたり、年齢や家族環境等に配慮した職場環境づくり、条件の整備に努めています。 | | |
| 13 | (9) | ○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している | 職員の募集・採用に年齢や性別を判断材料にしていません。地域や家庭での役割を理解し、自己実現の権利も保障される様に配慮しています。 | 幅広い年代の職員がおり、勤務年数の長い職員が多く、安定している職員体制は安心感がある。産休や病休後に復職する職員、短時間勤務を希望する職員もおり、夫々の事情に配慮した勤務体制に配慮している。職員休憩室は完備されている。 | |
| 14 | (10) | ○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる | 年2回の人権学習に全職員が参加しています。 | 職員個々が参加しやすい会場を選択し、全職員が外部での人権研修に参加している。また、内部でも尊厳や高齢者虐待防止、認知症ケア、理念等の研修を通じて、人権教育、啓発に努めている。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|-----------------------------|------|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 15 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 内外の研修に積極的に参加する機会を設け、職員一人一人のスキルの向上に努めています。 | | |
| 16 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 他職種の勉強会への参加や、他施設のイベントへの参加、地域包括主催の勉強会での交流等を通じて、サービスの質の向上に努めています。 | | |
| II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 17 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 利用者の要望等を傾聴し、決して孤立する事の無いよう利用者に寄り添い安心を確保出来る様に努めています。 | | |
| 18 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | ご家族の不安や要望等を受け止め、それに答えられるよう時間をかけて説明を行い、必要時には自宅に出向き納得していただき、関係作りに細心の注意を払っています。 | | |
| 19 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 直ぐに入居するのではなく、利用者の状態、家族の状況、要望に応じて、他のサービスへの紹介等もしています。 | | |
| 20 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 利用者の残存能力を活かせる支援に努め、共に暮らす家族の様な信頼関係を築いています。 | | |
| 21 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 通院に同行したり、意思決定はご家族に一任し、生活面でのサポートも時にはお願いしています。交流会を通じて、ご家族にも楽しんでもらい、共に利用者を支える関係性を築いています。 | | |
| 22 | (11) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 電話連絡への配慮や、地域のイベントへの参加等で利用者のご家族だけでなく、友人とも出来る関係性が途切れることが無いように支援しています。 | 日ごろから家族や親族、友人等の来訪する機会が多く、居室内には家族等の写真も多く掲示されている。自宅で過ごしたり、お墓参りに出かけたりと、家族とも連絡しながら支援を行っている。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|------|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 23 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | レクリエーション時やリハビリ時での位置や、声掛け等を行うことで、利用者が孤立する事が無いように配慮しています。 | | |
| 24 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 通院時のお世話や、必要時に応じて利用者やご家族の相談や支援に積極的に取り組んでいます。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 25 | (12) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 本人の希望、意向を聞き、日々記録し、職員間でも共有しています。困難な場合には日常の発言や表情等から利用者本位に検討し、出来る限り実践しています。 | センター方式の活用について研修を実施し、半年ごとの更新や担当者の変更等を通じて、新たな気づきや現状の把握に努めている。可能な方には、利用者本人に自画像(C-1-2シート)や氏名、生年月日を記載してもらっている。日常の中での情報や気づきを共有しながら、個別のより良い暮らしや介護計画への反映に努めている。 | |
| 26 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | ご家族や友人、知人等からの情報を基にこれまでの生活環境、暮らし方の把握に努めています。 | | |
| 27 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 日常の表情、食事量等やご家族、かかりつけ医からの情報提供を基に、心身状態や有する力等の現状の把握に努めています。 | | |
| 28 | (13) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 本人が望まれる事、ご家族の望まれる事、課題とケアの在り方と見極めを重視し、現状に応じた介護計画を作成しています。 | センター方式を活用したアセスメントを実施し、半年ごとに更新しながら情報共有を図っている。日々のサービス計画実施記録や、各担当者による毎月のモニタリング、カンファレンス等を通じて、現状の確認と見直しに必要性について検討を行っている。現在、重複している内容を含めて書式の整理に取り組んでいる。 | |
| 29 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 病状の進行や、心身状態の気づきを毎日記録し、毎日の申し送り等で職員等で情報を共有し、介護計画の見直しに活かしています。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 30 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 利用者との日々の関わりの中で得たニーズや、面会の際ご家族から得たニーズ(入院時のお世話や病院への付き添い、行政機関への手続きのお手伝い等)に、臨機応変に対応しています。 | | |
| 31 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 地域包括や各行政との連携、病院等リハビリの同行など、時と場合に応じて対応しています。 | | |
| 32 | (14) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | かかりつけ医への受診は利用者及びご家族の希望を取り入れ、適切な医療が受けられる様に支援しています。入院の際は別の診療所を紹介していただいたりしています。 | 本人、家族の意向によるかかりつけ医との関係性を大切に、定期受診等を支援している。他科受診については家族との連携も活かし、情報共有に努めている。また、新たに訪問診療体制も整備し、適切な医療を受けられるよう支援している。 | |
| 33 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 日々の体調の変化に気をつけ、必要時にはかかりつけ医院の看護師と電話やFAX等で伝達し、対応していただくこともあります。 | | |
| 34 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 利用者が入院した際は、病院に2日に1度は出向き病院関係者と連携を取り、早期で受け入れる体制を整えています。 | | |
| 35 | (15) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | ご家族と何度も話し合いを持ち、納得が得られるよう説明をし、希望等を聞き入れ方針を共有する様に取り組んでいます。地域の関係者や医療施設とも相談の上支援しています。 | 入居時より、重度化した場合や終末期のあり方について事業所としての方針を説明し、意向を確認している。センター方式の活用や、状況の変化に伴い話し合いを重ねる中で、本人及び家族の意向の把握に努めている。ターミナルケアに関する内部研修も実施されており、家族や医療関係者とのチームケアを高めながら、個別のより良い暮らしの継続に努めている。 | |
| 36 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 利用者の急変時に直ぐに気づくように日々の状況を把握し、事故発生時には直ぐに対応できるように、消防署の訓練を受け救命救急の受講し備えています。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|---|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 37 | (16) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 全職員参加で防災訓練を実施しています。地域の有識者等にも協力体制を依頼し災害時に備えています。 | 消防署の協力を得ながら実施される年2回の訓練に加え、自主訓練を2回実施し、年4回昼夜を想定した防災訓練を行っている。風水害や地震に関するマニュアルを整備し、研修の中で地震発生時の対応や手順を再確認している。運営推進会議を活用した訓練実績もあり、飲料水や非常食を2週間分準備している。防犯に関する外部研修にも参加している。 | |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 38 | (17) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 生活歴を重視し、個別のプランを立て、プライバシーや、自尊心を重んじて声かけや対応をするよう職員教育をしています。 | 倫理・法令遵守や尊厳、プライバシー保護等の内部研修を通じて、職員の意識を高めている。センター方式の活用や理念の共有を通じて、利用者個人個人の全人的な理解に努め、本人本位に基づく実践に取り組んでいる。理念の中で、主観的現実の尊重を謳っている。 | |
| 39 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 日常生活の中でいつでも話しやすい雰囲気づくり、また心身状態や精神状態を考慮し、自己決定が出来る雰囲気づくりに努めています。 | | |
| 40 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 心身状態を考慮し、気分のすぐれない時には外出をしたり、希望に出来るだけ沿った対応をしています。 | | |
| 41 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 本人の意向やご家族の意見を取り入れながら、衣服の好みや定期的な整髪など、おしゃれが楽しめる様に支援しています。 | | |
| 42 | (18) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 献立の際、できるだけ個別の希望を取り入れるようにしています。その日の体調や残存能力に応じて食事の準備や片づけなど出来る事を共同で行っています。 | 調理師の資格を持つ職員を中心に3食手作りしている。食材は生協からの配達品や自家製米、地域の野菜などを使用し、新鮮で安全な食材にこだわっている。利用者の嗜好を考慮した献立を考え、食事の準備や片付けなど出来ることは手伝いを得ている。通院の帰りに個別に外食支援する機会も設けている。 | |
| 43 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 医療機関からの情報を基に、水分量の調節や食事のバランス、禁忌物など注意を払い支援しています。また一人一人の状態や嚥下力に応じた形態(ミキサー食・刻み食等)で提供しています。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 44 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 起床時及び毎食後の口腔ケアの実践、義歯の洗浄、口腔内の洗浄も職員の付き添いのもと適切なケアをしています。 | | |
| 45 | (19) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 個別の排泄パターンや習慣を掴む努力をし、時間誘導を実施しています。 | 排泄チェック表やセンター方式の活用を通じて、個別のパターンや習慣、できることや可能性の把握に努め、日中はトイレでの排泄を基本として個別の支援に努めている。羞恥心や自尊心への配慮を念頭に置き、歩行訓練も意識しながらトイレ誘導を支援している。 | |
| 46 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 腸内環境が整うような食材を中心に献立を作成しています。また適度な運動の取り入れを実践して便秘の予防に努めています。 | | |
| 47 | (20) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている | 週3回を基本的な入浴日にしていますが、利用者の希望や体調、状況に応じて臨機応変に対応しています。 | 週3回、午前中の中の入浴を基本としているが、体調や希望により柔軟に対応している。必要な方には職員2名体制で介助し、浴槽に入ってゆっくりくつろいでいただくようにしている。拒否される方には声掛け方法を変えたり、時間をずらすなど工夫をしている。 | |
| 48 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 消灯時間は設けず、居室での休息・睡眠が安心して出来るように、一人一人の生活習慣や、状況に応じて支援しています。 | | |
| 49 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | かかりつけ医からの情報を基に、職員は薬の目的、量などを理解し、処方箋等で確認し服薬の支援を行っています。また心身状態に応じてその都度指示を仰ぎながら支援しています。 | | |
| 50 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 利用者の能力に応じて、得意分野(裁縫・料理・歌・運動等)を活かし、日々を楽しく過ごせる様に支援しています。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 51 | (21) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | ご家族と買物やドライブに出掛けたり、馴染みの美容室に行かれたりと外出や外泊の機会を設けており、その都度必要な支援を行っています。 | 家族に協力をお願いして、買物や外食、ドライブに出かけている。事業所としては、通院時に利用者の希望するところへ立ち寄ることがある。気候のよい時は散歩したり、事業所前の敷地でおやつを食したりと、外気浴が出来る支援に努めている。 | |
| 52 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 時折買物に出掛け出向き、支払時には手助けをしています。 | | |
| 53 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 利用者の希望に応じて、手紙の差出の手助けをしています。電話等も自由に使用していただき、ご家族との関係性を維持出来るように支援しています。 | | |
| 54 | (22) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 共用の空間を広く清潔に保ち、時には目隠しを置き、混乱を招かないような配慮をしています。また季節感のある手作り作品や飾り付けをし季節感を感じられる様にしています。 | 清掃や整理整頓が行き届いた共用空間やリビングには、文化祭出展作品として皆で製作した複数の大きな貼り絵が掲示され、明るく、広々と居心地よく過ごせる雰囲気である。飾られた花や、外の日本式の庭に季節を感じ、癒される時を過ごすことが出来る。 | |
| 55 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | テーブルや椅子の配置を変更したり、2～3人で雑談できる場所を設けています。 | | |
| 56 | (23) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 出来るだけ安心して暮らしていけるように元の生活の再現を心掛けています。 | 居室にはベットや大きな収納庫や箆笥、テレビが備え付けられ、仏壇や家族の写真や趣味の作品等を飾り、安心して過ごせるよう配慮されている。個別の状態を見極めながら、リスク軽減に向けた工夫や動線の確保、くつろぎの為の椅子など用意されている。 | |
| 57 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 手洗いには電気を点灯し、各居室にはセンサーを設置し、危険のないよう環境整備に気をつけ安全に生活できるようにしています。 | | |